

この人と

子どもから引っ張りだこ
三ツ沢 グッチさん 46

出身地の長泉町などを題材にしたオリジナル紙芝居を、地元の幼稚園やイベントで披露する。根底には「子どもたちに郷土愛を感じてほしい」との願いがある。

デンデン。小太鼓を2度鳴らして紙芝居をめくると、子どもたちが目を輝かせる。主人公は、幼い兄妹「長くん」と泉ちゃん」だ。舞台は地元

の商店街。「コロッケがおいしい後藤精肉店に、2人が仲良くおつかいに行くところ」。拍子木を片手に軽妙に語る。

長泉町で7年間勤めた会社を辞め、30歳で横浜へ。「新横浜ラーメン博物館」でアルバイトを始めた。昭和の街が再現された館内で、警察官や大工の棟梁を演じ、子どもたち

を楽しませてきた。時給は850円。「演技の肥やしになる」と信じて続けたが、苦しい生活に耐えかねて帰郷した。だが、9年間もアルバイトを続けられたの

露した時、子どもたちに笑顔はなかった。「一方的に話しかけるただの自己満足だった」と苦笑いする。以来、地元になんだ物語を作った。2011年の紙芝居の全国大会では3位に入賞した。

長泉こいだわり紙芝居



【プロフィール】本名は後藤知彦さん。名古屋市の大学時代は放送研究会で、会社員時代には東京の俳優養成学校で芝居の勉強に励んだ。富士宮市出身の俳優・里見浩太郎さんの付き人を務めた経験もある。昨年11月には、全国の紙芝居師を招待したイベントを初めて沼津市で開催。昨年10月に旗揚げした「ながいずみプロレス」の発起人でもある。

は、子どもたちの笑顔に支えられたからだ。

損害保険会社の代理店を経営しながら、「今度は地元で子どもたちのために働こう」と、博物館でかじった紙芝居を本格的に始めた。芸名はアルバイト時代と同じ。当時住んでいた横浜市神奈川区にある地名と、「似ている」と言われたタレントのグッチ裕三さんにちなんで名付けた。

だが、地元の幼稚園で初披露

詩「長泉わくわく祭り」などが登場する「持ちネタ」は200近い。多い時で月10回もイベント出演するなど、今では引っ張りだこだ。

時代劇の舞台で、台本に役名がない「切られ役」を何度も演じた。紙芝居にも「表情で演技する力」が必要だ。「夢は破れたと思っていました。でも、今は紙芝居という舞台で芝居をしています」

(小沢理貴)

ブルーハーツ元ドラマー梶原さん

復興支援 浜松で演奏

「リンダリンダ」などのヒット曲で知られる人気ロックバンド「ザ・ブルーハーツ」のメンバーだったドラム奏者梶原也さん(49)が24日、不登校児ら

い、現在も毎月1回、スクールの子どもたちにドラムを教えている。

梶原さんも高校時代、不



つかみ取り
汗にじます

養殖ニジマスの生産量が日本一とされる富士宮市の富士山本宮浅間大社周辺で3日、「にじます祭」が開かれた。

ニジマスのつかみ取り「ナー」では、子どもたちが水しぶきを上げて泳ぎ回る